

合	七、八七四、二四〇	九、九〇〇、一八三	二、一七三、六九四	〇、〇七、九〇四	〇、三八、三九五	〇、六五、六四七	四、七六、七三五	二、三、八九五、三五五
收支差引	六、〇七一、七四六	三、一〇一、九九九	四、三三二、八八三	六、五〇四、三五五	〇、三五五、七三三	四、六六、三六三	〇、八三、〇四九	五九二、七九
剩餘								
不足								

右收支調書中ニアル有益ハ條例ヲ定メル當時京都ニ於テ石炭ノ平均相場壹萬斤ニ付金貳拾三圓ナリシヲ尙之ヨリ二割ヲ減シ壹萬斤ニ付金拾八圓四拾錢ノ割合ヲ以テ電力ノ使用料ヲ定メ之ヲ基礎トシテ左ノ條例ヲ定メタルモノニシテ水利事務所ノ直接ニ得ル利益ノミ掲ケタルモノナリ若シ間接ノ利益ヲ論スレハ特リ京都市ノミナラス宇治、愛宕、葛野、紀伊ノ各郡ニ及ホシ其受ル所ノ利益實ニ莫大ニシテ一々枚舉ニ遑アラス固ヨリ直接利益ノ比ニアラサルナリ

(未完)

拔萃

○セントバーナードニ電氣鐵道布設ノ計畫

有名ナルアルプス山ノ徑路タルグレート

セント、バーナードニ電氣鐵道ヲ布設セントラグレート、セント、バーナード鐵道會社英國ニ創立セラレ已ニ其計畫ヲ具シテ伊太利政府ノ准許ヲ乞ヘリ其山内線路ノ全長ハ四十三哩半ニシテ出願線路ハ伊太利ノ國境ヨリミレイス州ノマーチグニーマデノ間ナリ其設計ハ技師ジョン、ビー、フェル氏ヨリ伊太利並ニ瑞西ノ兩政府ニ回送シテ其觀覽ニ供シタリ山路ハ非常ニ峻險ナルヲ以テ第三軌條アプト式ヲ採用シ且冬期異常ノ降雪ニ遭遇スルガ故ニ運轉ノ安全ヲ保維スル爲相當ノ設備ヲナス積リナリ工費ハ十二万磅ノ豫算ニシテ政府ノ補助ヲ仰ガザル

ベシト云フ(ロンドン、エレクトリカル、インジニア)

○歐羅巴ニ於ケル電氣鐵道統計

歐洲各國ノ營業電氣鐵道ノ延長及其車輛ノ數左ノ如

シ(獨索官報)延長ハ「キロメートル」ニテ示ス)

	鐵道延長		車輛數			鐵道延長		車輛數	
	一八九七年	一八九八年	一八九七年	一八九八年		一八九七年	一八九八年	一八九七年	一八九八年
獨逸	六四二・六九	一、一三八・二〇	一、六三二	二、四三三	露國	一四・七五	三〇・七〇	四八	六五
佛國	二七九・三六	三九六・八〇	四三三	六四四	瑞典	七・五〇	二四・〇〇	一五	四三
英國	二七・四五	一五・二〇	一九五	二五二	セルゲイア	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一一	一一
瑞西	七六・七五	一四六・三〇	一九	三三七	ポスニア	五・六〇	五・六〇	六	六
伊國	一五・六五	一三・七〇	二八九	三三一	ルーマニア	五・五〇	五・五〇	一五	一五
澳匈國	八三・八九	一〇六・五〇	一九四	二四三	和蘭	三・二〇	三・二〇	一四	一四
白耳義	三四・九〇	六九・〇〇	七三	一〇七	葡萄牙	二・八〇	二・八〇	三	三
西班牙	四七・〇〇	六一・〇〇	四〇	五〇	計	一、四九九・〇六	二、二八九・四〇	三、〇九五	四、五四

右ノ如ク獨逸ハ電氣鐵道ノ發達ニツキ第一位ヲ占メ其營業線路ノ延長ハ千百三十八・キロメ
 ートルニ〇即チ他ノ歐洲諸國ニ於ケル同線路ノ延長合計千百五十二・キロメートルニ〇ト殆
 ント同一ニシテ其車輛ノ數ニ至リテハ他ノ諸國ニ屬スル車輛合計二千二十一個ニ對シ二千
 四百九十三個ニ達ス是レ獨逸ニ於テ電氣鐵道業ノ發達著大ナルノ明證ナリ